平成２９年　９ 月１５日

平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川第二小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成29年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年　国語　１１４人　算数　１１４人　理科　１１４人

第５学年　国語　１１６人　算数　１１６人　理科　１１６人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

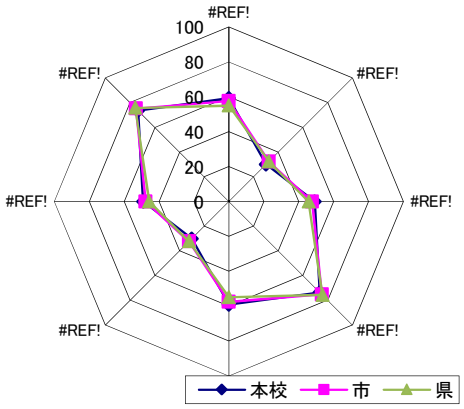
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	#REF!	59.1	57.5	54.9
	#REF!	30.1	32.3	32.3
	#REF!	49.1	47.7	45.7
	#REF!	73.6	75.3	75.8
観点	#REF!	59.1	57.5	54.9
	#REF!	30.1	32.3	32.3
	#REF!	49.1	47.7	45.7
	#REF!	73.6	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

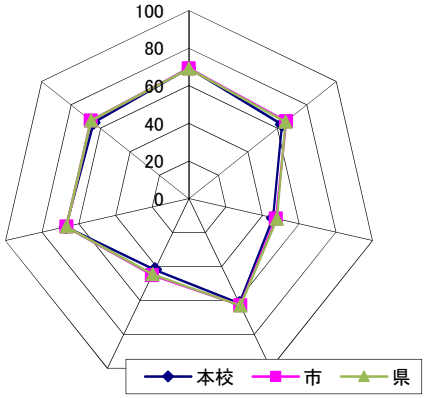
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県平均よりも高い。 ○話し合いにおける司会者の役割を理解して進行する設問，理由を挙げながら筋道を立てて話す設問，話の中心に気を付けて聞き，自分の意見を述べる設問，いずれも県平均を上回っていた。 ●話の中心に気を付けて聞き，自分の意見を述べる設問では，個人差が大きく課題が見られた。	・教科や特別活動の指導において，グループなどの少人数で話し合う活動を効果的に取り入れる。また，児童一人一人が進行するための役割を理解して，それぞれの役割を果たす経験をする機会を設けるなどして，積極的に話し合いに参加し，自分の意見を述べることができるよう指導していく。さらに，児童の日常生活でも自分の意見を反映させていけるように，多くの場を設定していく。
書くこと	平均正答率は，県平均よりも低い。 ●設問別正答率では，いずれの問題も県平均より低い結果となっている。また，選択式・記述式ともに低い。なおかつ最後の設問で，無答率も高いことから，時間がなくてできなかったことも考えられる。 ●「メモや友達の意見を基に，報告レポートのまとめを書く」問題では，正答率がかなり低かった。	・レポートにまとめる際に，見出しをつけたり，番号をつけたり，メモに書いたことをどのように整理すると分かりやすくなるのか考えながら書くように指導する。 ・資料やメモをもとに，筆者がどのようなことをレポートに書こうとしているのか，中心となる内容を明確に記述できるように指導する。また，報告する文章を書く際には，書く相手や目的に応じた文章の形式を意識させるようにする。 ・国語の授業のみならず，社会や総合的な学習の時間等で，メモをもとにレポートを作成していく学習を取り入れていく。 ・時間の配分なども助言しながら，すべての設問に取り組んでいけるようにする。
読むこと	平均正答率は，県平均よりも高い。 ○登場人物同士の関係や物語上の役割を捉える設問の正答率は県平均を上回っている。目的に応じて答えを問題文から書き出すことに,良好な状況が見られる。 ●文章を話の内容に応じてまとまりに分けたり，内容全体を要約したりする設問は県平均を下回っている。特に自分の言葉で説明する記述式の問題に二極化の傾向がみられる。	・「読むこと」の文章内容の理解において，小見出しを付ける等内容によってまとまりを作る活動を取り入れたり，自分なりの言葉でまとめ直したりするなどして，内容を整理しながら読み進めていけるよう指導する。内容をまとめる際も，空欄だけのワークシートの他に，中心となる語や文を抜き出す穴埋め式のワークシートも準備しておき，自力解決が難しい児童には，まず穴埋め式から取り組ませるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は，県平均よりも低い。 ○会話文におけるかぎ「」の使い方についてはとてもよくできていた。 ○漢字の読みはおおむね県平均を上回っている。 ●漢字の書きは県平均を下回っており，無答率も高い。 ●ローマ字の書き方も県平均より13ポイント以上低く，定着していない。	・漢字の定着を図るために，さまざまな場面での漢字の活用と漢字辞典を利用した「漢字の意味」を調べ理解する活動を多く取り入れる。 ・地名や人名など，身近なところでローマ字表記のものを見たり，コンピュータを使ったりするなど，ローマ字は児童の生活の中に身近なものになっている。児童が日常目にする単語に対して表記の確実な定着を図るために，計画的に繰り返し練習を行い，知識・技能の定着を図っていく。また，定着の状況によって意図的に復習する場を設けていくようにする。具体的には自主学習で「ローマ字で書いてみよう」等を取り入れる。

宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	#REF!	69.4	69.2	69.1
	#REF!	63.2	66.1	65.6
	#REF!	45.8	47.4	48.0
	#REF!	61.8	62.9	63.1
観点	#REF!	41.8	45.1	44.6
	#REF!	67.0	66.8	66.8
	#REF!	64.9	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

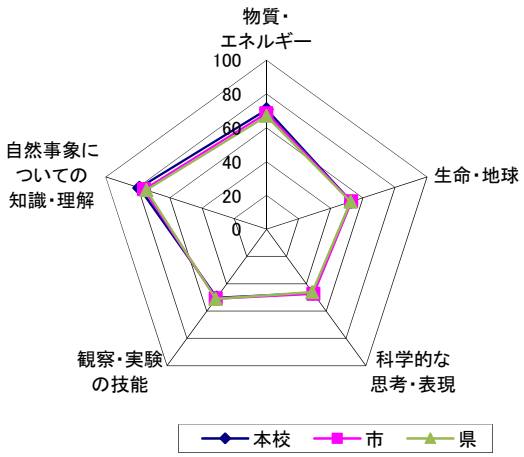
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県よりやや上回っている。 ○繰り下がりありの4位数−4位数＝4位数のひき算，3位数×2位数＝5位数のかけ算の正答率が県の平均より高く，よくできている。 ●数直線上で万の単位の数を読み取ることや，余りのある除法で，余りの処理の理由を説明することについて課題が見られる。	・四則演算については，授業や家庭学習などで繰り返し学習をすることで定着を図っていく。 ・万の単位の指導に際しては，１万という数の大きさについて実感的にとらえられるよう指導していく。１万の大きさは1000が10個集まった大きさということを，万の単位の目盛の付いた数直線の上で数を表すことによって理解できるようにする。 ・文章題の読み取りについて，内容を理解し立式する活動を充実させ理解を深めさせる。
量と測定	平均正答率は，県より低い。 ○およその重さを選ぶ問題は県平均をやや上回っている。 ●表を見て，ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題では，正答率が低く，課題が見られる。	・文章問題の読み取り図や表から読み取ることに課題が見られる。問題をとらえるときに関係性を整理する活動を多く取り入れ，視覚的，感覚的に問題の概要をとらえられるように指導する。
図形	平均正答率は，県より低く，他の領域と比べても低い。 ○１辺5cmの正三角形を1cm間隔のドット上に作図する問題では，県の平均を上回り良好であった。 ●箱に入った同じ大きさの6個のボールから半径を求める問題では，県の正答率と比較して8.9ポイント下回り課題が見られた。	・平面図形と立体図形についての感覚を豊かにするために，形の特徴や性質を見出したり説明したりする活動を積極的に取り入れるようにする。 ・図形を構成する性質や意味の理解を深めるために，紙を切ったり，折ったり，変形したり，定規やコンパスを用いて作図したりするなどの作業的・体験的な活動を充実させることで知識の定着を図る。また，ボールの直径や半径については，球を平面で切ると切り口はどこも円になること，球をちょうど半分に切った場合の切り口が最大になることなどを模型の操作や観察を通して理解できるよう指導する。
数量関係	平均正答率は，県より低い。 ○棒グラフの目盛りの大きさの読み取る問題や表や棒グラフからわかる正しい内容を選ぶ問題では，県の平均を上回っている。 ●式が表している意味を読み取る問題や適した場面を選ぶ問題，□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題について，県の平均を下回り課題が見られた。	・身の回りにある事象について，目的に応じて観点を決め，資料を分類整理して，これを表やグラフを用いて分かりやすく表したり，読みとったりすることができるよう指導する。また指導にあたっては，学習のめあてを明示し，的確な判断をしたり合理的な予測をしたりしようとする態度を育てられるようにする。 ・式は数量や数量の関係を簡潔・明瞭・的確・一般的に表すことができる優れた表現方法であることを指導する。□を用いた式については，未知の数量を□などの記号を用いて表現することにより，文脈通りに数量の関係を立式できることを十分に理解させ,活用できるように練習を繰り返す。

宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質･エネルギー	70.7	68.6	66.9
	生命･地球	52.7	52.8	52.4
観点	科学的な思考･表現	46.9	47.4	46.2
	観察･実験の技能	50.2	50.8	51.1
	自然事象についての知識･理解	79.1	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，県よりも高い。 ○はかりの正しい操作の仕方について，よくできていた。 ○輪ゴムをのばす長さと車の走る距離の関係について，よく理解できていた。 ○虫眼鏡で集光した所の大きさと明るさの変化をよくとらえていた。 ○磁石の異極は引き合い，同極は退け合うことについて，よく理解できていた。 ●磁石を使ったおもちゃを回り続けさせる方法の理解について，課題が見られる。 ●回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方の理解について，課題が見られる。	･観察や実験において，予想や仮説などの見通しをもたせた上で，問題解決のプロセスを大切にした授業設計をする。 ･観察や実験を通して，自然の事物･現象の性質や働きについて気付いたり確かめたりするなど，実感を伴った理解ができるように指導していく。 ･観察や実験から分かったことについて，科学的な言葉を使って説明し合う学習活動を取り入れ，自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を捉えさせ，お互いに考えを見直したり振り返ったりすることができるように指導する。 ･磁石の性質の実験においては，実験の目的を明確にするとともに，問題意識をもって取り組めるように十分な時間を確保して実施する。 ･回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方については，児童に身に付けさせたい安全な実験の仕方を具体的に指導する。
生命・地球	平均正答率は，県より高い。 ○昆虫の体のつくりについて，よく理解している。 ○昆虫の体の色とすみかとの関係について，県や市の正答率を上回っている。 ●植物が成長する順序の理解について，課題が見られる。 ●観察記録をもとに昆虫を選択し，選んだ理由を説明することや，記録から温度を測った場所を選び，その理由を説明することについて課題が見られる。	･自然の事物･現象の理解を図るとともに，グラフなどの資料を正しく読み取ることができるように指導していく。 ･実験や観察の結果について，実験毎に自分の言葉でノートに考察を書くことにより，客観的な見方で自分なりの考えがもてるようにする。また，そのことを.理由付けをして説明する場面を設定する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」や「友達の話を聞くとき，意見を最後まで聞くことができる」の肯定割合が高いことから，安心して発言できる雰囲気や基本的なコミュニケーション力が身についていることがわかる。

○「家の人と学習について話をしている」や「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」の設問に対し，肯定的に回答した児童の割合は県平均より高く，家庭において安心した環境のもと，学びに向かう意欲が培われていることがうかがえる。

○「家で宿題をしている」や「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」について肯定的回答をしている割合は，県平均に比べて高い。家庭学習で勉強に対し，前向きに取り組んでいる様子がわかる。

○「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」や「授業を集中して受けている」の設問に対しても肯定割合が県平均を上回っていることから，自分のめあてや目標をもって授業に取り組んでいるといえる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」や「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことができる」，「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問に対して肯定的に回答した児童の割合が，県平均より低く，課題が見られる。小集団での話し合い活動や様々な場面で自分の考えを発表する場を多く設けていきたい。

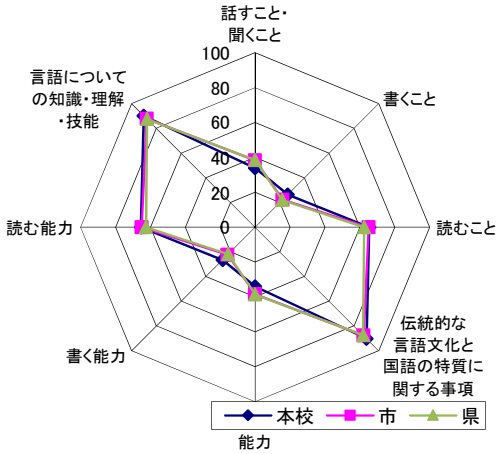
●「家で,自分で計画を立てて勉強している」や「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問では,肯定的に回答した児童の割合は県平均より低かった。家庭学習計画表などを活用しながら,自ら課題をもって学習を進めていくことができるよう自主学習への取り組みを推進していく。また,学習指導部だより「家庭学習で学力UP」を通して,家庭での学習習慣の意識を高め,学校と家庭とが連携して学力向上につなげていけるようにする。

●「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を集めている」や「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」や「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，辞書を使って調べている」の設問に対しての肯定的割合は県平均を約5ポイント下回っている。授業でも本や辞書・インターネットなどを活用した調べ学習の時間を確保するとともに，自分から進んで本や辞書・インターネットなどを活用して，積極的に調べていこうとする意欲を高めていきたい。

宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	33.9	38.3	38.5
	書くこと	26.4	22.3	21.9
	読むこと	65.4	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	90.2	87.8	87.5
観点	話す･聞く能力	33.9	38.3	38.5
	書く能力	26.4	22.3	21.9
	読む能力	65.4	65.0	62.5
	言語についての知識･理解･技能	90.2	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

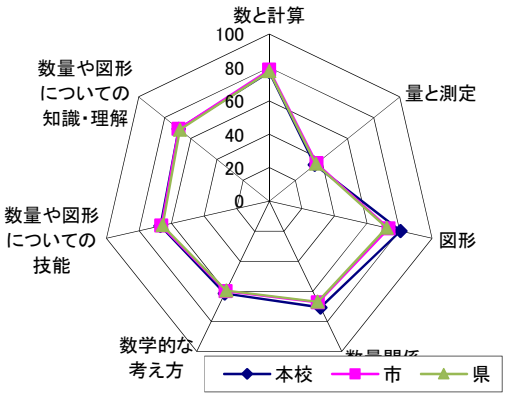
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県平均と比べてやや低い。 ●話し合いにおいて，司会者の役割を理解して進行する内容の設問の正答率は低く，課題が見られる。 ●話し合いにおいて，考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す設問の正答率が低く，課題が見られる。	･話合いの中で，自分の役割を意識して適切な話し方ができるよう，授業以外でも学校生活の様々な場面で，立場を明確にして話し合う場を意図的に設定する。 ･話合いの際には，話し手の意図を的確にとらえ，自分の考えを根拠を添えて論理的に話すようにする活動を，継続して取り入れて行く。
書くこと	平均正答率は県平均と比べて高い。 ○文章構成を意識したリーフレットの工夫について選択する設問については，正答率が高い。 ●メモの内容に新しい情報を加えてリーフレットを作る設問については課題が見られる。	･文章を書く際には，メモをもとにして何をどのようにして書けば良いのか，基本的な書き方を具体的に示しながら指導していく。 ･文章の形式に合わせて，書き始めや文末の表現に注意しながら書くことを意識させるとともに，決められた字数内で必要な情報を文章にする活動を各教科で取り入れる。
読むこと	平均正答率が，県平均と比べて高い。 ○中心となる語や文に注目して小見出しを付ける設問は，県の平均を大きく上回った。 ●叙述を基に，登場人物の気持ちを想像して読む設問と文章を読んで考え，まとめたことを発表し合う設問は県の平均をやや下回り，課題が見られる。	･新聞や雑誌等も含め，様々な分野の文章に親しめるよう，豊かな読書活動の一層の推進を図る。 ･物語文では，登場人物の気持ちを想像して読み取ったり，物語全体の内容を考えたりする活動を繰り返し丁寧に指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率が，県平均と比べてやや高い。 ○漢字辞典の使い方に関する設問は正答率が高く，県平均を大きく上回っている。 ●慣用句の使い方の設問の正答率が市と県の平均を下回り，今後の課題である。	･伝統的に使われてきた言語表現である慣用句やことわざを，授業の中でさらに丁寧に扱うとともに，校舎や教室内に掲示するなど，身近に慣れ親しめるような工夫をしていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.3	78.6	77.7
	量と測定	34.9	36.3	35.7
	図形	80.6	73.3	72.1
	数量関係	70.7	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	61.4	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	66.8	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	69.4	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

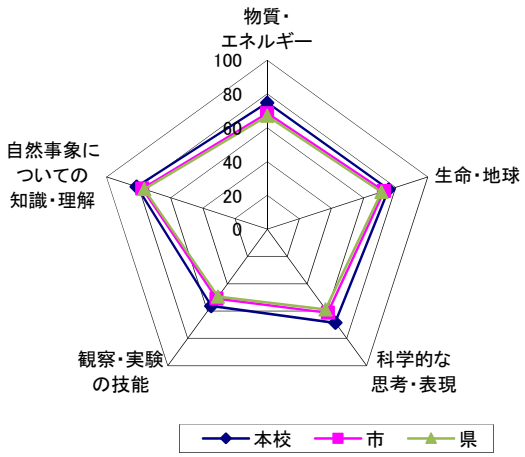
,○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県とほぼ同程度だが，昨年度と比べると10ポイント上回っている。 ○整数のわり算は商に空位があり，あまりを出す問題であったがよくできている。 ●小数の計算はかけ算もわり算も県と市の正答率を下回っている。	・かけ算やわり算の基礎となる形は前年度からの積み重ねから着実に身に付いてきていると思われる。しかし,小数の問題では小数点の移動や付け忘れなどが授業の中でも見られるので，見直しの徹底と，自主学習などで復習を行うように指導する。
量と測定	平均正答率は，他の領域と比べ低い。 ○1㎡の正方形は1㎝の正方形何枚分かを求める設問について，県の正答率を8ポイント上回っている。また,式に合った複合図形の面積を求める方法を説明する設問の正答率も県の正答率を上回っている。 ●教室の机の上の面のおよその面積を推測し選ぶことや,図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する設問に課題が見られた。	・生きた知識を身に付けさせるためには，実感が伴った量感覚が必要なので，実際にどれぐらいのものなのか，体験活動を取り入れた学習の展開をしていく。 ・多様な考え方ができるように，教師側が教えるだけの授業ではなく，児童が主体的に考え学び合える授業の展開を図る。
図形	平均正答率は，県平均より高い。 ○立方体の展開図を組み立てたときの平行な面を選ぶことがよくできている。 ●定規とコンパスを用いて，与えられた2辺の続きをかいて，平行四辺形を完成させることについて課題が見られる。	・立体図形について,展開図の組み立てや平行の意味についてよく理解することができている。今後も，立方体や直方体の内容において，面，頂点などの構成要素の個数や面の形，辺や面の平行，垂直の関係などについて理解できるように具体物を使って指導するとともに，図形を観察したり，構成したり，分解したりすること通して図形についての見方を豊かにしていけるよう指導していく。 ・「向かい合った辺の長さが等しい」という平行四辺形の性質を踏まえてコンパスで長さを測りとる作図の仕方をおさえ，演習する機会を設ける。
数量関係	平均正答率は，県平均より高い。 ○数量の変わり方で，2つの数量の関係を式で表すことはよくできている。 ○表や折れ線グラフの読み取りはよくできている。 ●1人の考え方を選び,1つの式に表し,おつりを求める設問について課題が見られる。	・四則の混合した式や（　）を用いた式において，一つの数量を表すのに（　）を用いることや乗法・除法を用いて表された式が一つの数量を表すことを確実に理解できるよう指導していく。また，いろいろな場面や問題で式に表したり，式から場面や一般的な関係を読み取ったりするなど，同様の練習問題を繰り返し行い習熟を図っていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	74.8	68.6	67.0
	生命・地球	75.6	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	68.6	61.2	58.8
	観察・実験の技能	56.3	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	81.2	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は，全ての設問で県と比べて高い。 ○閉じ込めた空気と水の性質についての設問では，実験を通して体積の変化をよく理解し，それを利用したポットの仕組みについて推測できている。 ○ものの温まり方についての設問では，正答率が90%を超えるものが多く，実験を通して温まり方の違いをよく理解していることが分かる。 ○電気のはたらきについての設問では，電池のつなぎ方からおもりを引き上げる時間を考えたり光電池の働きと光の強さの関係から結果を推察したりと，知識を基に考察する力が育っている。 ●へこんだピンポン玉が元の形に戻る理由や金属の棒の温まり方を説明する記述式の問題では，正答率が40%台と低かった。筋道を立てて思考を表現する力に課題が見られる。	・今後も，金属，水及び空気の性質など，興味・関心をもって学習に取り組ませるとともに，実験などにおいては過程や結果を大切に,実感を伴った理解ができるようにしていく。 ・電気の働きについては，乾電池や光電池に豆電球やモーターなどをつなぎ，乾電池や光電池の働きと乾電池の数や光の強さとを関係付けながら調べ，電気の働きをとらえることができるようにする。 ・温度の変化と金属，水及び空気の温まり方や体積の変化について，ワークシートやプリントなど復習を通して理解を深めていく。また，金属，水及び空気の性質において，自分の言葉で適切に表現できるようにしていく。具体的には，授業において，自分の考えをもたせるとともに記述の仕方を指導し，実際に記述する場を数多く設けていく。
生命・地球	平均正答率は，県と比べて高い。 ○水が蒸発するときの地面のようすと気温では，グラフの読み取りがよくできている。また，星を観察するときに動かないものを基準にするなど，観察の基本もよくできている。図や動画を使って関連付けて説明するなど，視覚的教材を用いて指導した成果だと考えられる。 ●人のからだのつくりにおいて，正答率はやや低く，県や市の正答率をやや下回る。実験や観察で学習することができない内容に課題が見られる。 ●季節と生き物のようすにおいて，冬のサクラのようすの項目の正答率は69%と低く，県との差は4.9ポイント，市との差は7.6ポイントと大きい。植物の１年の変化の理解に課題が見られる。 ●方位磁針の使い方の正答率は県や市の正答率を上回るが，正答率そのものは低い。使用頻度が低い道具の使用の理解について課題が見られる。	・実験，観察ができない単元においては，今後も視聴覚機材，動画を効果的に使って指導していく必要がある。また，ワークシートにも絵・図・表が使われているものを積極的に活用し，用語と実物とを視覚的に結び付けながら理解できるようにする。 ・器具の使い方の理解度を高めていくために，器具の使い方について実演して視覚的に理解させる。また，器具の使う目的と使い方を関連付けて理解できるように，どの児童も器具を活用する機会を作る。 ・植物の１年のようすでは，身近にある植物について時期ごとに観察をするだけでなく，記録を残し，様子の変化を理解できるようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家族の人と学習について話をしている」の設問に対して肯定的な回答をした児童の割合は，県の平均を大きく上回っている。また「自分は家族の大切な一員だと思う」の設問については県平均より3ポイントほど上回っていて，９６．６%とかなり高い割合になっている。このことから，児童は豊かな生活体験をしていることがわかる。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の設問に対して肯定的な回答をした児童は９９．１%である。普段から委員会の当番活動や学級での係活動を，自主的に行っている姿が多く見られることが数字の上からも裏付けられている。

○「勉強していて，ふしぎだな・なぜだろうと感じることがある」の設問に対して肯定的な回答をした児童は９１．４%で，県平均を６ポイント程度上回っている。学びに対して，児童が前向きな姿勢で取り組んでいることがわかる。

○社会的な実践力を問う設問について，「自分のよさを人のために生かしたい」「自分の持っている能力を十分に発揮したい」の設問に対して肯定的な回答をした児童はいずれも高く，県の平均を上回っている。また，ニュース番組を視聴している児童も多く，地域の出来事にも関心をもっている。

○家庭学習に関することについては，「自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は県より６．４ポイント，「テストで間違った問題についての勉強をしている」と答えた児童の割合は，県より９．５ポイント高い。しかし，肯定回答の割合としてはそれ程高くはなく，今後も家庭学習の進め方に関する指導，助言を継続していく。

●「毎日，同じくらいの時刻に寝ている」「早寝早起きを心がけている」の設問に対して肯定的な回答をした児童の割合は県の平均を下回っている。しかし，睡眠時間に関する調査では，約７０%の児童が８時間から１０時間の間と回答している。体育の保健的内容の学習や学級活動等を通して睡眠の大切さの指導を行い，意識の改善に努めていく。

●「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦している」「難しい問題にであうと，よりやる気がでる」「自分はクラスの人の役に立っている」「自分は勉強がよくできる方だと思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」の設問に対して肯定的な回答をした児童はいずれも低く，県の平均を若干下回っている。児童が自己有能感を高められるよう，一人一人の見取りや声掛け，認めることで児童のやる気の奮起させることを意識した指導を行っていく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問に対して肯定的な回答をした児童は５６．９%で，県の平均を約８ポイント上回っているものの，高い数値とは言えない。また，「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている児童は５８．６%であり，約半数の児童が苦手意識をもっている。授業展開の中で，話合い活動の前には個別で思考する時間を必ず取り，ノートやワークシートに自分の考えをメモすることから始め，「書く」ことへの抵抗感を和らげるとともに，自分の考えや意見が発表できるようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
各教科等の基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ意欲の向上	・日々の授業の中で，目標（めあて・ねらい）を示すことで，児童が見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。またふり返る活動を通して達成感や満足感を味わわせ，次の学習への意欲につなげていけるようにする。	・「授業の目標が示されている」と回答した割合は県平均を上回っていたのに対し，「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」と答えた割合は県より低かった。授業をふり返る活動について各教科で工夫し取り組んでいく必要がある。
家庭学習の習慣化	・週末の家読を全学年で実施し，学校と家庭とが連携して学習に取り組めるような学習環境作りを呼びかけている。また家庭学習の進め方など，懇談会をはじめ，学年だより等で保護者に協力をお願いしている。	・「家で学校の宿題をしている」，「家の人と学習について話をしている」と肯定的に回答した児童の割合は県平均を上回り良好であった。しかし，「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童の割合はそれほど高くなく，今後も家庭学習の進め方については継続して指導していく必要がある。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
友達の前で自分の考えや意見を発表することに苦手意識を持っていたり，授業で自分の考えを文章にまとめて書いたりすることを難しいと感じている児童の割合が多く，課題が見られた。	・授業の中で，積極的に話すこと，書くことを取り入れていく。	・授業の学び合いの場において，一人で考えること，そして隣同士やグループで意見を伝え合うことなど，多様な形態で自分の考えを発表したり交換したりする場を多く設けていく。またその都度，ノート等に自分の考えを文章でまとめていく時間を確保していけるよう努めていく。